

# 2010年度 人間科学研究所 戦略的研究基盤形成支援事業 活動報告書

2011年3月7日提出

1. 研究チーム代表者	所属 文学部 学部 職名 教授 氏名 東山篤規
2. チーム名称	心理バリア
3. 研究活動実績(200~400字程度)	
<p>日常的活動の中で遭遇するバリア(障害、つまづき)となるものについて、知覚・認知・行動の観点から研究し考察した。</p> <p><b>錯視</b>: 傾き錯視と静止画が動いて見える錯視の関係に関するモデルを提唱し、それを支持する証拠を得た。後者の錯視のうち特定の種類は高齢者に錯視量が少ないという仮説を確認した。</p> <p><b>奥行き</b>: 鏡に映じた写真画の奥行きは、じかに写真を見たときに比べて、広がるという事実を確認した。</p> <p><b>推論</b>: 常識的推理を逸したケースを含む多様な個人差と、見かけ上は異なるさまざまな課題における推理過程を統合的に捉えるための確率モデルの構築に向けて研究した。</p> <p><b>記憶</b>: 音韻によってもたらされる順序の記憶について実験を行った。また、音楽刺激を用いて、音韻の保持の基盤になると考えられる聴覚的記憶に関する実験を行った。</p> <p><b>カテゴリ化</b>: e-healthcare に関してカナダと日本において研究した。本来カテゴリ化に寄与しないはずの要因のカテゴリ化に及ぼす影響、ならびにカテゴリ化判断に及ぼす確信度と典型性の違いについて検討した。</p> <p><b>体重制御</b>: ハトを用いて体重変動にかかわる環境要因について検討した。検討した要因は毎日の給餌と給水環境であり、それらの効果を長期間にわたる時系列データとして分析した。</p> <p>(513文字)</p>	